

プロジェクト授業 インテリア演習（2022）

地元材を用いた椅子づくりー「手で考えて身体でつくる」教育の試み
Interior workshop seminar - making chair using local lumber.

●萩野紀一郎／富山大学学術研究部芸術文化学系

HAGINO Kiichiro / Faculty of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: Design build education, Interior, Local lumber, Human scale, Physical sense, Materiality

1. 芸文のデザイン・ビルド教育

富山大学芸術文化学部（以下「芸文」）の建築教育の大きな特徴は、模型や図面を用いた一般的な設計課題に取り組む前に、「椅子」や「シェルター」などを原寸大でつくるデザイン／ビルド教育を展開していることである。

2018年度のカリキュラム改変で、専門教育は主に2年後期からとなり、1年次後半の「空間デザインB（椅子）」が廃止された。2019年度は夏期特別演習「インテリア演習（椅子）」として実施されたものの、2020～21年度はコロナ禍の影響もあり開催できなかった。

2021年度入学生から学生のコース配属がなくなり、専門教育が2年前期から開始されるのと同時に、プロジェクト授業「インテリア演習ー地元材を用いた椅子づくり」として椅子づくりの演習が再開された。

0.	4月22日(金)3限	授業の説明会
1.	5月18日(水)3限(補講20日(金))	椅子を学ぶー課題の説明、名作椅子の体験と実測 ↓ 空き時間に実測し、実測図をひとりとりに描いてくる！
2.	5月27日(金)3限	椅子を学ぶー実測図面のエスキース、人体模型のつくり方 ↓ 実測図を完成させる！人体模型を製作する！
3.	6月15日(水)3限	素材(氷見スギ)を学ぶーヒミブリコラボ見学 ↓ 名作椅子、素材をもとに自分の椅子を模型スタディ！
4.	6月24日(金)3限	必要に応じ、各自ブリコラボへ ↓ 椅子のデザイナーエスキース、素材と接合について 接合方法・つくり方・素材をもとに自分の椅子の機型と材料どり！
5,6,7.	7月6日(水)3・4・5限 (営業日・水・土)	素材(氷見スギ)を学ぶー種林された山、製材所、ヒミブリコラボ見学 ↓ 接合方法・つくり方・素材をもとに案を決めていく
8.	7月20日(水)3/6限(要相談)	椅子のデザイナー個別エスキース ↓ 1/5(運営・原寸)模型・図面を作成、材料どり案をまとめる
9.	8月 お盆休み明け(要相談)	椅子のデザイナー発表会 ↓ デザイン修正し、素材の割り付け、道具、つくり方の検討
10.	8月 末(要相談)	椅子のデザインから制作へー木工機械演習、接合部の試作 ↓ 材料スミだし
11~14.	9月 初/中/末(要相談)	椅子の制作ー部材の加工、接合部試作、組立て、仕上げ、清掃 ↓ 椅子を完成させる(作業は教員の監督のもとで)
15.	9月 末(要相談)	講評会、清掃・片付け

表1 演習スケジュール、実際には10～12月に補講を実施。

2. 「インテリア演習」の狙いと特徴

演習再開に際し、素材と地域から学ぶ要素を盛り込み、素材をシナ合板から氷見スギへ変更し、氷見の山や製材所の見学も企画した。授業の狙いは以下の3点である。

- ① 「椅子を学ぶ」ー素材とかたち、身体との関係を学ぶ
- ② 「素材（氷見スギ）を学ぶ」ー素材と地域から学ぶ
- ③ 「デザイン・つくる」ーイメージの具現化・術を学ぶ

2019年の夏期の2週間集中で実施したが、時間が足りなかったため、本演習では前期の空き時間からスタートし、夏期に制作するというスケジュールとした。

3. 「椅子を学ぶ」ー5/18, 20, 27

まず椅子に関するレクチャーを行い、コミュニケーションセンターにある名作椅子すべてを実際に座り、各自の身体で椅子を感じることからスタートした。

次に各自が関心を抱いた椅子を一脚選び、その椅子とデザイナーを調査し、椅子を実測し、1/5の三面図とスケッチを作成した。2019年までは1/5模型も制作したが、2022年度は見学など内容が多いので省略した。

また、アクリル板を用いて関節が動く1/5人体模型を各自つくり、人体模型と三面図を重ね合わせることで、椅子と人体の関係を1/5スケールでの理解を試みた。



写真1(左) 大学にある名作椅子を体感。実測、作図も実施。
写真2(右) ヒミ・ブリコラボにて氷見スギを学ぶ。

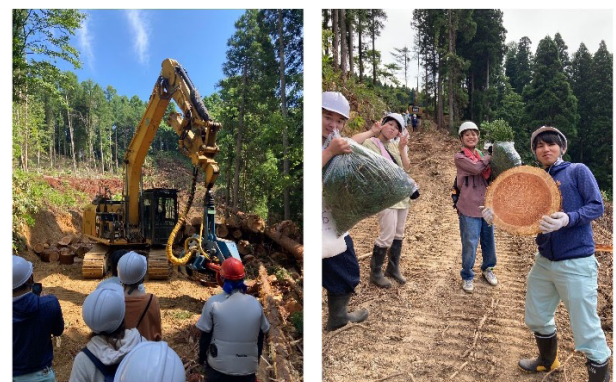


写真3(左) 氷見の山にて、ハーベスタを用いた伐採を見学。
写真4(右) 氷見の山にて、新月伐採、葉枯らし乾燥を学ぶ。

4. 「素材を学ぶ」－6/15, 7/6

本演習で用いる氷見スギは、ヒミ・ブリコラボ^{*1}にて1000円以下で購入するか、大学に残る端材とした。そこで、早い段階でブリコラボを見学し、スギを見て触り、入手可能な寸法やコストを大雑把に把握し、その後は各自が空き時間に適宜伺って購入した。

そして7月6日、岸田木材、富山県西部森林組合の方々に案内いただき、氷見の山に行き、スギの伐採および製材所を見学した。植林、枝打ち、伐採、葉枯らし、運搬、皮むき、乾燥、製材まで、川上から川下まで、本や情報だけでなく、実際に歩きまわり目に焼き付けてもらった。また岸田社長から、林業、製材業の現状や、新たな取り組みについてレクチャーしていただいた。

5. 「椅子のデザイン」－6/24, 7/20, 8/22, 24

椅子・素材の学びに続き、6月から各自の椅子のデザインもスタートした。実測した、あるいはその他の椅子を参考に、入手できる素材、各自の技術を考えながら、スケッチや1/5の図面と模型でスタディした。人体模型を活用し、原寸と1/5スケールを行き来する感覚を身に着けるように心掛けた。しかし前期授業の後半と重なり、デザインが遅れた学生も多かった。

6. 「椅子をつくる」－8/29, 31, 9/5, 8, 10/2, 19, 11/2, 12/21

8月後半から、デザインと同時に、部材の接合方法、工程、道具や機械の選択、安全講習を個別に指導し、制作に取り掛かった。9月に完成した学生も6～7名いたが、10月以降に補講を行い、12月までに13人の学生が椅子をつくりあげた。履修登録学生はその倍ほどの人数あったが、8～9月に帰省やインターンなどでスケジュールが合わず、履修を取りやめた学生が多かった。指導キャパシティもその程度が限界であったともいえる。

7. 「椅子を感じる」－講評会 12/23、展示 12/21 ～ 1/19

これまでの芸術系教育は、“創り手”の教育を行って椅子の制作後、講評会と学内展示を実施し、仲間がつくった椅子に座りあい、椅子を身体で感じてもらった。

講評会日程が、木の建築賞の第3次現地審査の日程と重なったので、審査に訪れた杉本洋文東海大学名誉教授、山崎真理子名古屋大学教授、石川春乃静岡理工科大学准教授にも、特別ゲストとして講評いただいた。^{*2}

8. 成果と課題

2022年度は、氷見スギを用い、山や製材所の見学も行い、内容が多かったが、質も完成度も高く、大変興味深い椅子が多かった。スギの柔らかさ、加工しやすさを

活かし、ビスだけでなく、手鋸、ノミなどを用いたほぞ組みに挑戦する学生も目立っていた。各自が、椅子・素材を身体で学び、原寸や工程をイメージしながらデザインし、つくりあげる喜びを体感してくれたと思う。

課題は、スケジュールと指導キャパシティである。特別授業のため開催時間の確保が難しく、夏期は帰省やインターンと重なる。各自のデザイン、使う技術や道具も異なり、安全徹底のため、殆ど個別指導となるので、指導キャパシティに限界がある。今後は2022年度の経験を活かし適宜改善を重ねていきたいと考えている。

注釈

^{*1} ヒミ・ブリコラボは、岸田木材株式会社が、2021年、氷見中央町商店街の空き店舗を改修し、端材の販売や、ワークショップを開催している場所である。

^{*2} 木の建築賞については、「NPO木の建築56」、NPO法人木の建築フォーラム、2023年4月、参照。

参考文献

1. 「手で考えて身体でつくるーデザイン/ビルド教育の多様性と可能性」、デザイン/ビルド教育WG編著、日本建築学会2021年度大会PD資料、2021年9月



写真5(左) 制作風景。ノミを使ってほぞ穴加工。



写真6(右) 制作風景。部材の組立て作業。



写真7(左) 学内展示。自分やみんながつくった椅子を体感。



写真8(右) 講評。多様な視点からのアドバイスをいただく。